

防火カードゲームで 「遊ぶ・学ぶ・広がる」 ～幼児への防火思想の啓発～



岡山県岡山市 中国短期大学保育学科
教授 原田 眞澄

中国短期大学は2021年に岡山市消防局と協定を締結し、「既存の防火カードゲーム（以下「カード」と称す）（写真1）を園児が遊べるようにする」という課題に取り組みました。2019年に考案されたカードは、すでにイベントなどで広く活用されていました。小学生以上の年齢になると一人で、あるいは子どもだけで遊べますが、保育所では大人がついていないと使いこなせないことが課題になっていました。そこで、その課題を解決するために、中国短期大学の保育学生2年生が全員で協力することになりました。このお話をお受けした時、私は大学の4年生ならまだしも、短大の2年生には正直荷が重いと感じていました。

しかし、ふたを開けてみると学生達の頭は柔らかくて、自由な発想で次々と遊び方のアイデアを考案していくのです。普段、保育を勉強していることも役立っているようで、岡山市消防局から一人に1セットずつ配られたマイカードを広げて熱心に話し合い（写真2）、合計20のグループから〇×クイズやすごろく、フルーツバスケットなど楽しいアイデアが生みだされま



写真1 防火カードゲーム



写真2 グループワーク

した。岡山市消防局の方を招いた最終選考では5つのグループがプレゼンテーションを行い、厳正な審査を経てその中の1つが採択されました。その幼児向けの遊び方は印刷されて（写真3）、2022年3月に岡山市内の保育所に配布されました。

園児が保育所や幼稚園でカードを使って遊べば、火事の原因や予防策、消火方法を学ぶことにつながります。さらに、遊んだ話を家に帰って親や祖父母に話せば、園児一人から周りの大人に防火思想を広げる効果が期待でき



写真3 みんながしょうぼうしさん（あそびかた）



写真4 子どもとカードゲーム



写真5 消防士なりきり体験

ます。つまり、園児は「遊び」ながら自然と「学び」、やがてその防火思想の輪が家族にも「広がる」ということです。これまでの防災教育と違うのは、消防署見学や避難訓練というイベントでその日限りの学びとして完結してしまわないことです。保育室に常時置かれたカードなら、他のおもちゃと同じように毎日手に取って遊ぶことができます。園児は、いろんな遊びの一つとしてカードに触れます。どの子もクイズに正解したいので、火事の原因や火事が起きやすい場所を覚えていくことでしょう。火の消し方がてんぷら油と紙ごみでは違うということも、遊びながら繰り返し学習できます。本学の附属子ども園の4歳児クラスと5歳児クラスにカードを置いてもらったところ、火事の原因・場所・消

火方法などを組み合わせてストーリーを作り、最後は必ず消防士のカードを置いて「消火成功」と言って楽しんでいました。

遊び方を考案した学生は卒業し、今は後輩がその意思を受け継いでいます。岡山市消防局の方々が行うイベントにボランティア学生として積極的に参加し、地域の子どもや家族を対象にカードゲームをして防火思想の啓発を図っています。写真はその一例で、J2ファジアーノ岡山のホームゲームで活動した一コマです。子ども達は、カードゲーム(写真4)だけでなく火災のVR体験や消防士なりきり体験(写真5)をして記念撮影もします。楽しい思い出と共に、家族全員で火事を起こさないように予防すること、万が一火事を見つけたら正しい消火活動ができるよう学びます。

また、学生たちは保育所や幼稚園で実習する際にはカードを持参し、園児と一緒にカードゲームをします。実習先の先生は、まだこのカードゲームの遊び方をご存じありません。ですから、まず学生が説明をして、ご理解が得られたら園児と一緒に遊びます。好奇心旺盛な先生だと、興味津々で園児と一緒に遊びに参加していただきます。その意味で、幼児への防火思想の啓発と同時に、現場の先生方にカードの存在をアピールするチャンスにもなっているのです。

本学はカードというツールを通して、岡山市消防局の方々と貴重なつながりをもてました。学生たちはボランティアや実習でカードを使うたび、どんどん変化しているように感じます。幼児に対してなにか特別な指導というのではなく、遊びながら学び結果として防火思想の輪が広がる斬新なアプローチ方法を、今後も大切にしながら活動を継続してほしいと願っています。なお、この防火カードゲームは、岡山市消防局予防課トップページからダウンロードが可能です。